

区)調査集検整合係の味木和 喜子係長らの調べで分かっ かに低いことか、大阪府立成 その後のがんの発生率が明ら 禁煙しなかった人に比べて、 線治療後に禁煙した人では、 喉頭 (こうとう) がんの放射 さら...」と考え、実行しない 人病センター (大阪市東成 つしても遅くはないようだ。 人は多い。しかし、禁煙はい 禁煙を思い立っても「いま

喫煙を続けている人と、禁

死亡率も低下

が、1000を超えるヘビー 年数を掛けた「たばこ指数 は、一日の喫煙本数に喫煙の 煙だと考えられている患者に スモーカーが多い。 上が男性で、原因の9%は喫 喉頭がんの患者は、9割以

響を及ぼすかを調べたもの。 はなく、以前のがんとは別の 多重がんとは、再発や転移で が、多重がん発生にどんな影 療した後の喫煙習慣の有無 この調査は、喉頭がんを治

> がんが発生したものを言う。 年たった時点で禁煙していた の男性。手術の必要がなく、 た25人で見ると、治療から1 放射線による治療のみを受け 人は37人だった。 へは88人、喫煙を続けていた 調査対象は、40歳から79歳

開始後約5年間に、喫煙継続 対して禁煙者は0・53で、 ると、喫煙継続者1に対し 0・48。40歳から50歳に限 者でがんが発生した割合を1 あることが分かった。 死亡の危険度にも大きな差が を比較すると、喫煙継続者に て、禁煙者は0・26だった。 とすれば、禁煙者の割合は約 煙した人を比較すると、治療 同様に、約5年間の死亡率

を1とすると、喫煙継続者が 吸えなくなる。手術を受けた が多いので、手術を受けると と、ほとんどの人はたばこを 合は喉頭を取つてしまうこと 人で多重がんが発生する割合 喉頭がんでは、手術する場

> 多い放射線治療のみの人は ないが、喫煙の影響は無視 でこの割合になるわけでは め、喫煙の継続だけが原因 1・7。ほかの要因もあるた できない。

要です」(味木係長) は少ない。禁煙することが重 なくしても軽くしても、効果 ず、健康な人にとっても、が んについて言えば、本数を少 「喉頭がんの治療後に限ら

を摘み取ってしまう。 がんだか、喫煙はその可能性 を長く過ごせる可能性が高い 近くで、比較的、健康な毎日 喉頭がんは、同生存率が8割 は平均で5割ほど。しかし、 すべてのがんの5年生存率

が多いという。しかし、禁煙 ももう遅いと思ってている人 いたのに、いまさら禁煙して れまで大量にたばこを吸って ず禁煙しない人の中には、こ とが調査によってはっきりし は、いつしても遅くはないこ がんになったにもかかわら **卜毛新聞** 1998年(平成10年)3月16日家庭欄26面

喉頭がんの大半は喫煙

お願いで 者儿。 たばこやめ 自分のために



たばこをやめたい人の中に 軽いたばこも無効

ばこにした、といったこと るだろう。 で、がんにかかる危険性が少 は、本数を減らした、軽いた なくなると思つている人もい